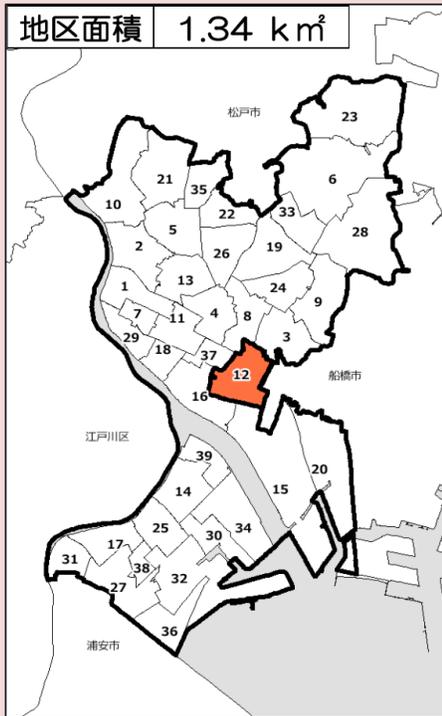


# 12 鬼高小学校区

## (1) 位置

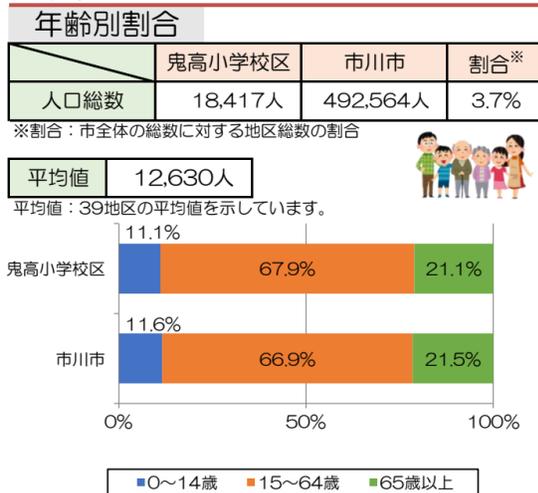


## (2) 地区概況

- ◆位置  
鬼高小学校区は、市の中央部に位置し、地区内を真間川が横断しています。また、地区の東側に船橋市が隣接しています。
- ◆地形・土地利用  
地形は、氾濫平野及び後背湿地で構成されています。地区の北側は第一種住居地域等の住宅地となっており、南側は工業地域で工場のほか低層住宅、事業所、商業施設が立地しています。また、大型商業施設のコルトンプラザ、県立現代産業科学館、生涯学習センター等が隣接して立地し、市民の憩いの場となっています。
- ◆都市基盤  
地区内の西側の一部は、土地区画整理事業により整備されました。地区の南側には京葉道路が通り、市川ICが立地しています。東西にかけて県道283号線（産業道路）、西側に都市計画道路3・4・18号が通っています。また、地区の中央にはJR総武本線が通っており、地区外の北東側に下総中山駅が隣接しています。北側には京成本線も通っており、鬼越駅があります。地区内には、JR本八幡駅行きの京成バスも通っています。

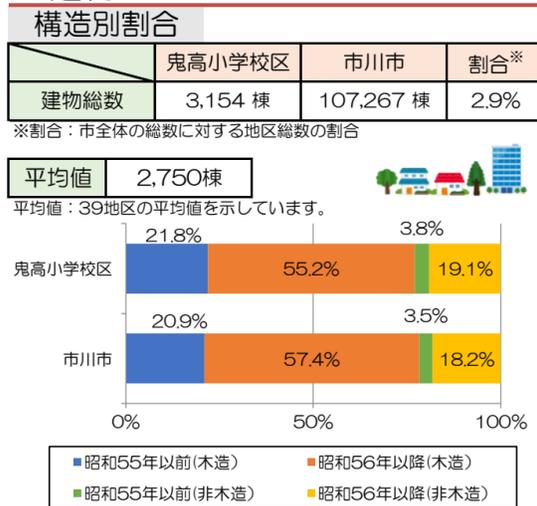
## (3) 人口・建物概況

### ◆人口



地区の人口は、全地区の平均人口より多いですが、市全体と比較すると年齢構成は似た割合となっています。

### ◆建物

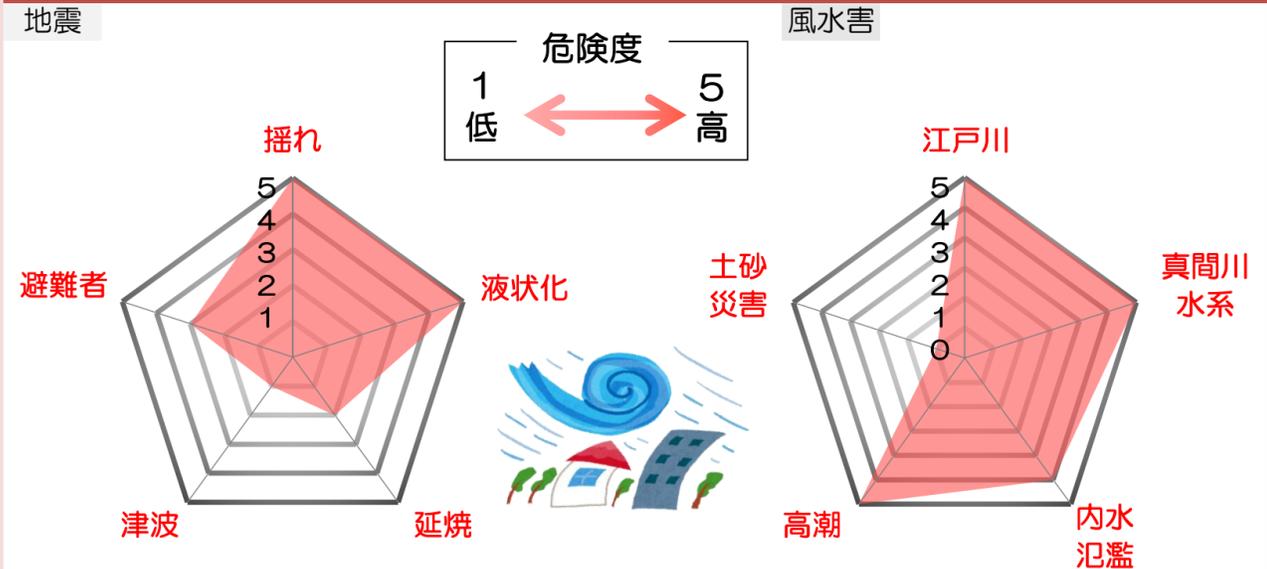


地区の建物は平均よりやや多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合がやや低いです。また、非木造建物がやや多い地区となっています。

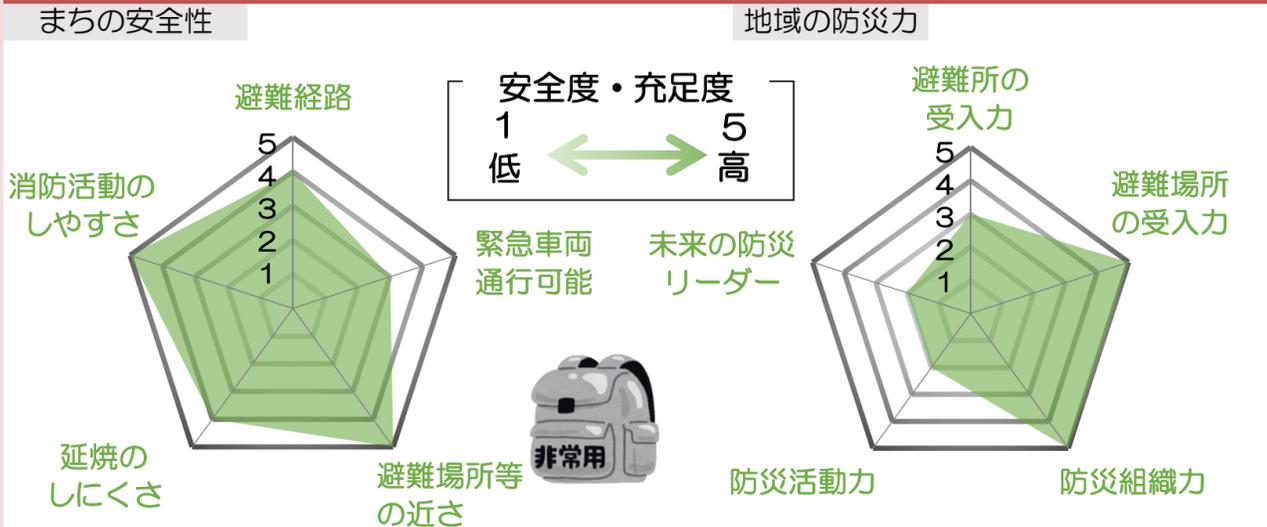
## (4) 災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現状データを用いて相対的に評価しています。

### ◆災害に対する弱み（マイナス面）



### ◆災害に対する強み（プラス面）



### ◆評価

鬼高小学校区は、地震災害については、全域で震度6強の揺れが予測され、揺れ、液状化による危険性が高い傾向にあります。風水害については、地区内に真間川が流れていることから、真間川水系の氾濫による浸水の危険性が高く、江戸川の氾濫、内水氾濫、高潮による浸水の危険性も高い傾向にあります。

一方で、まちの安全性については、避難経路、避難場所等の近さ、延焼のしにくさ、消防活動のしやすさは高い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難場所の受入力、防災組織力は高い傾向にあるものの、防災活動力、未来の防災リーダーは低い傾向にあります。

## (5) 防災関連施設

### ◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
鬼高小学校	-		
第六中学校	-		
鬼高公民館	-		
勤労福祉センター本館	-		

### ◆避難場所

名称
鬼高小学校
第六中学校
鬼高公民館
勤労福祉センター本館
ニッケコルトンプラザ
市川地方卸売市場
県立現代産業科学館駐車場

### ◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設(公設)	鬼高保育園		医療救護所	なし
	中央こども館		関連施設	市川警察署
	南八幡こども館			



## (6) 被害想定結果(地震・風水害)

### ◆地震災害(被害を受ける割合)

想定項目	鬼高小学校区	市川市全体	
建物被害	全壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	6.6%	4.8%
	半壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	14.6%	11.8%
	焼失棟数の割合	6.6%	10.2%
	浸水棟数(津波)の割合	0.1%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.1%	0.1%
	負傷者の割合	0.4%	0.4%
	避難者の割合	21.9%	20.0%



### ◆風水害(被害を受ける割合)

想定項目	鬼高小学校区	市川市全体	
建物被害	浸水棟数(江戸川)の割合	87.6%	52.9%
	浸水棟数(真間川)の割合	90.7%	47.7%
	浸水棟数(内水)の割合	84.3%	57.9%
	浸水棟数(高潮)の割合	96.1%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準の建物割合がやや低いこともあり、全壊の建物被害はやや多い傾向となっていますが、非木造建物がやや多いことで、火災被害は市全体よりやや低い傾向となっています。また、人的被害については、避難者が市全体よりやや多くなっています。

一方で、風水害については、江戸川の氾濫、真間川水系の氾濫、内水氾濫、高潮の浸水による影響が大きく、市全体と比較して浸水棟数は多くなっています。

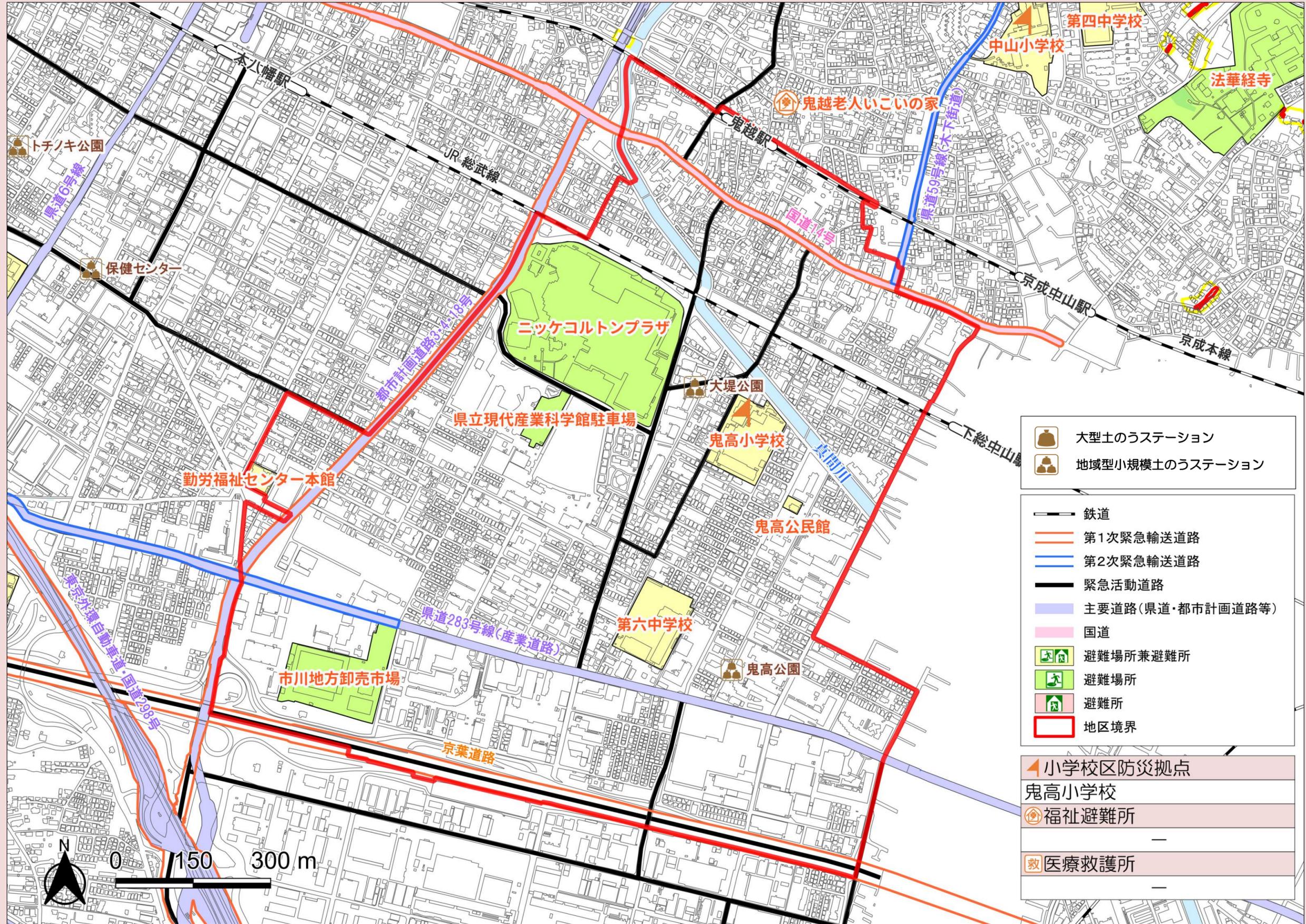
## (7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域において、震度6強の揺れが予測され、液状化による危険性が高いことから、耐震対策や家庭での備蓄対策が重要です。
風水害	地区内に真間川が流れていることから、河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、また高潮の浸水の恐れがあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区のまちの安全性に関する評価項目は総じて高い傾向を示していますが、狭い道路がやや多いことから、緊急車両が通行可能な道路が重要です。
地域の防災力	地区には、防災活動力が低いことから、災害発生時に即座に対応できるよう、初期対応や応急復旧活動に対する対策を行うことが重要です。また、未来の防災リーダーとなる人材育成を進めていくことが重要です。

## (8) 防災対策の方向性

項目	取組の方向性
地域の取組	災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。市が開催する防災セミナーやイベント等に参加する等、地域ぐるみで防災リーダー等を育成していくことが必要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策を進めるとともに、家具の固定、ライフラインの途絶に備えあらかじめ飲料水等の備蓄をしておくなど自宅(家庭)の防災性を向上させることが効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

# (9) 防災マップ



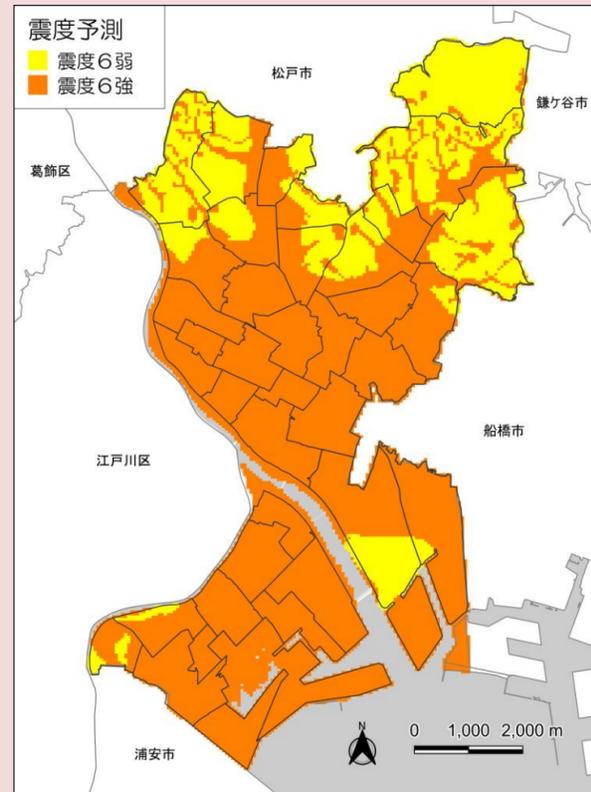
- 大型土のうステーション
- 地域型小規模土のうステーション

- 鉄道
- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- 緊急活動道路
- 主要道路(県道・都市計画道路等)
- 国道
- 避難場所兼避難所
- 避難場所
- 避難所
- 地区境界

- 小学校区防災拠点
- 鬼高小学校
- 福祉避難所
- 
- 医療救護所
-

# (10) 基礎資料

## ①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾直下を震源域とする地震が発生した場合の結果です。  
震度分布図を見ると、市の南部を中心に広く震度6強と予測されています。

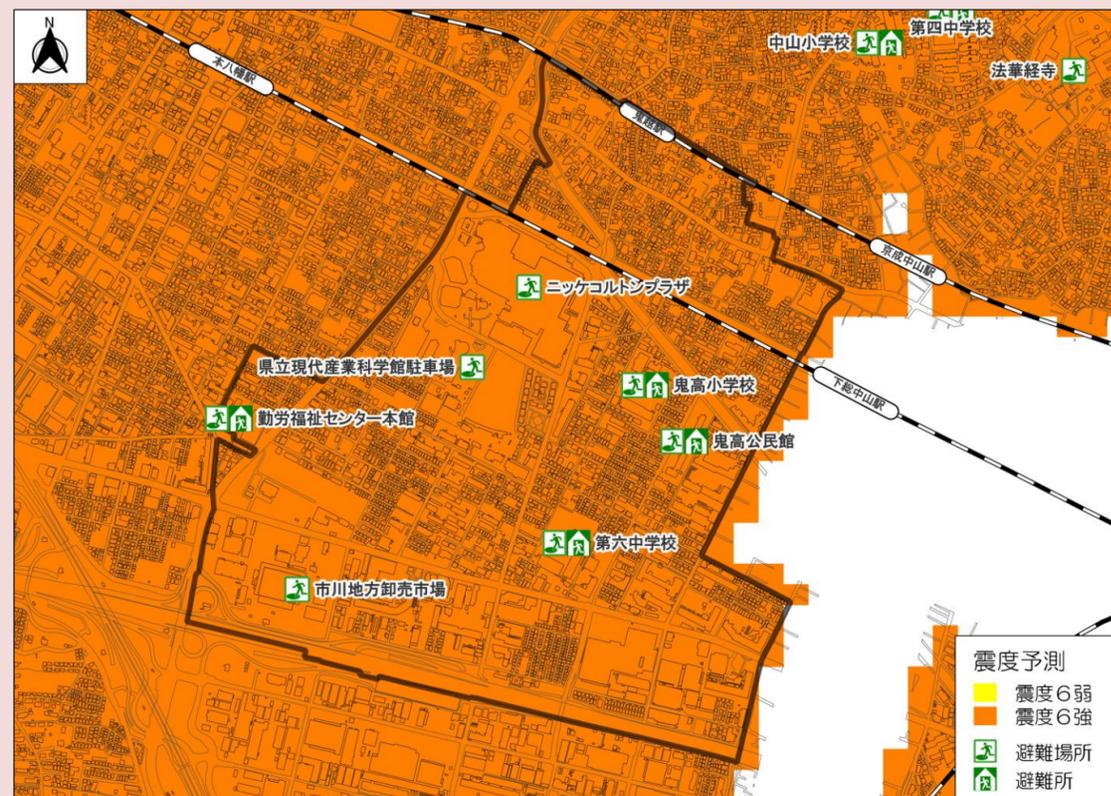
想定地震	東京湾直下地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：48km程度)

### ▼震源

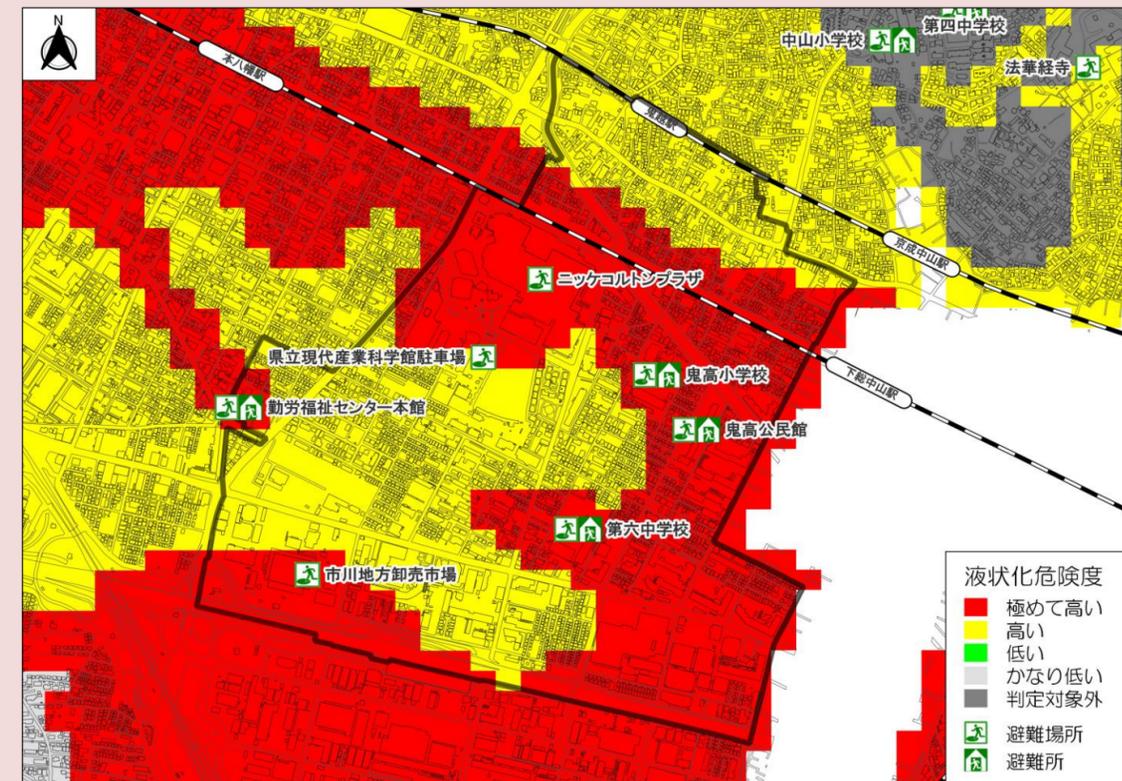


※本結果は市川市地震被害想定結果（令和5年度）に基づいています。

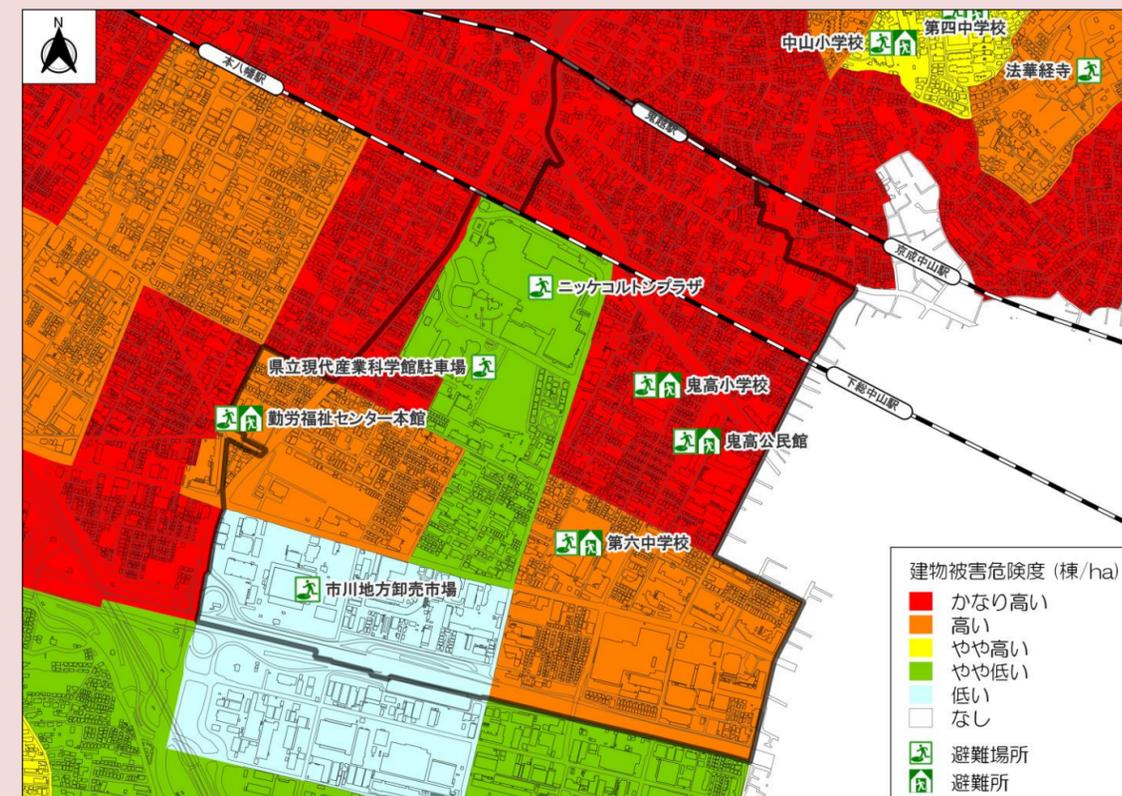
## ②震度分布図



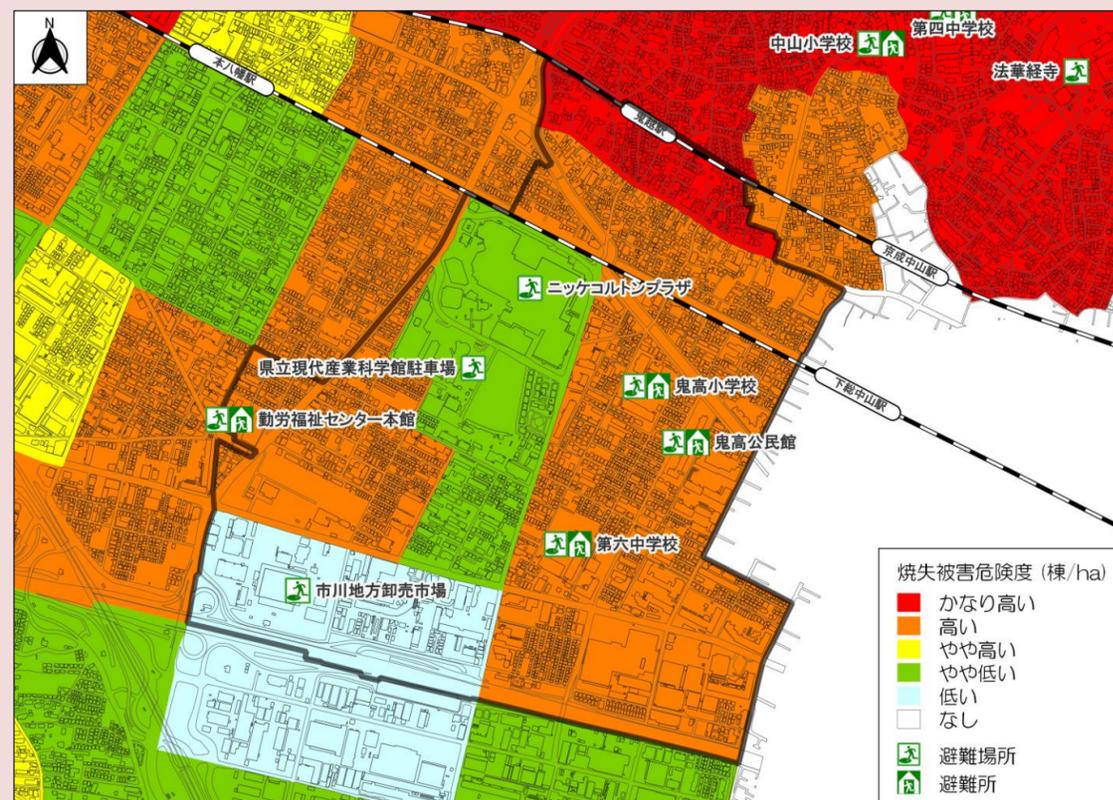
## ③液状化危険度



## ④建物被害（揺れ・液状化による被害）



### ⑤建物被害（延焼による被害）



### ⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

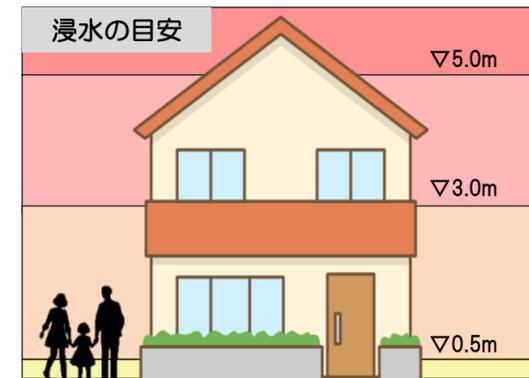
災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ浸水想定区域外の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

避難にあたっては、市指定の避難所にこだわらず、浸水しない地域の知人宅、職場などに避難することも有効です。

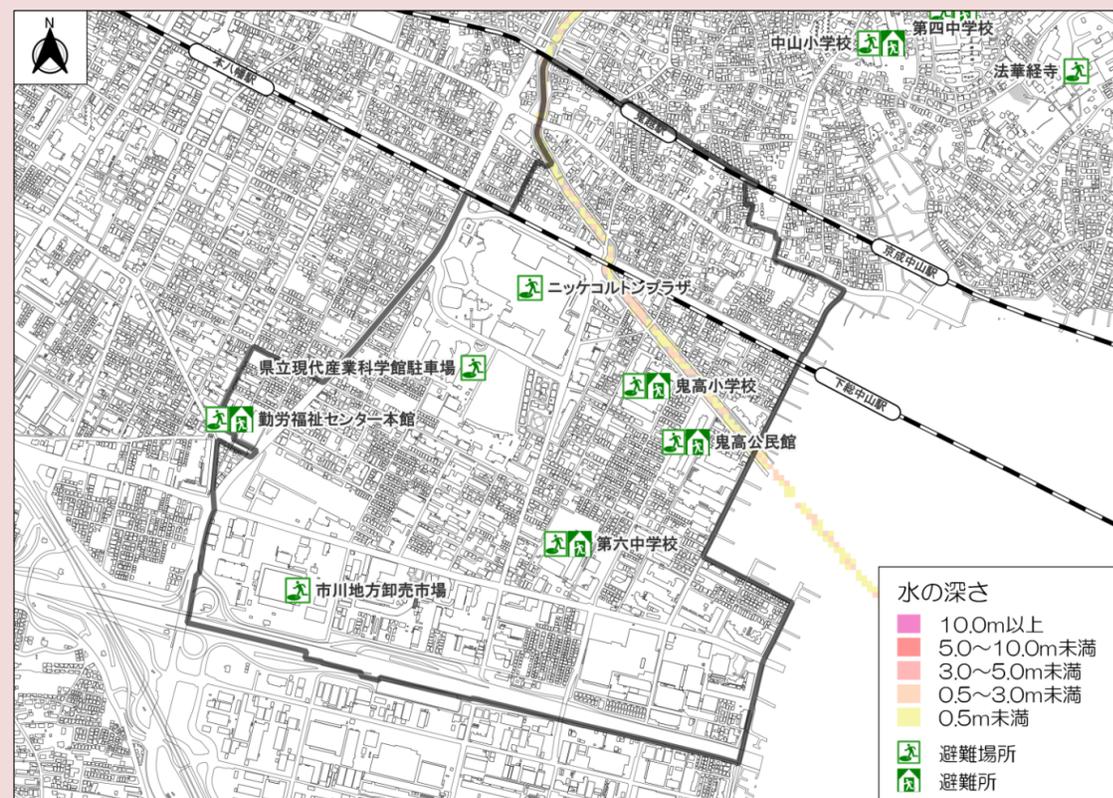
#### 水の深さ

- 水の深さが5.0m以上
- 水の深さが3.0～5.0m未満
- 水の深さが0.5～3.0m未満
- 水の深さが0.5m未満



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

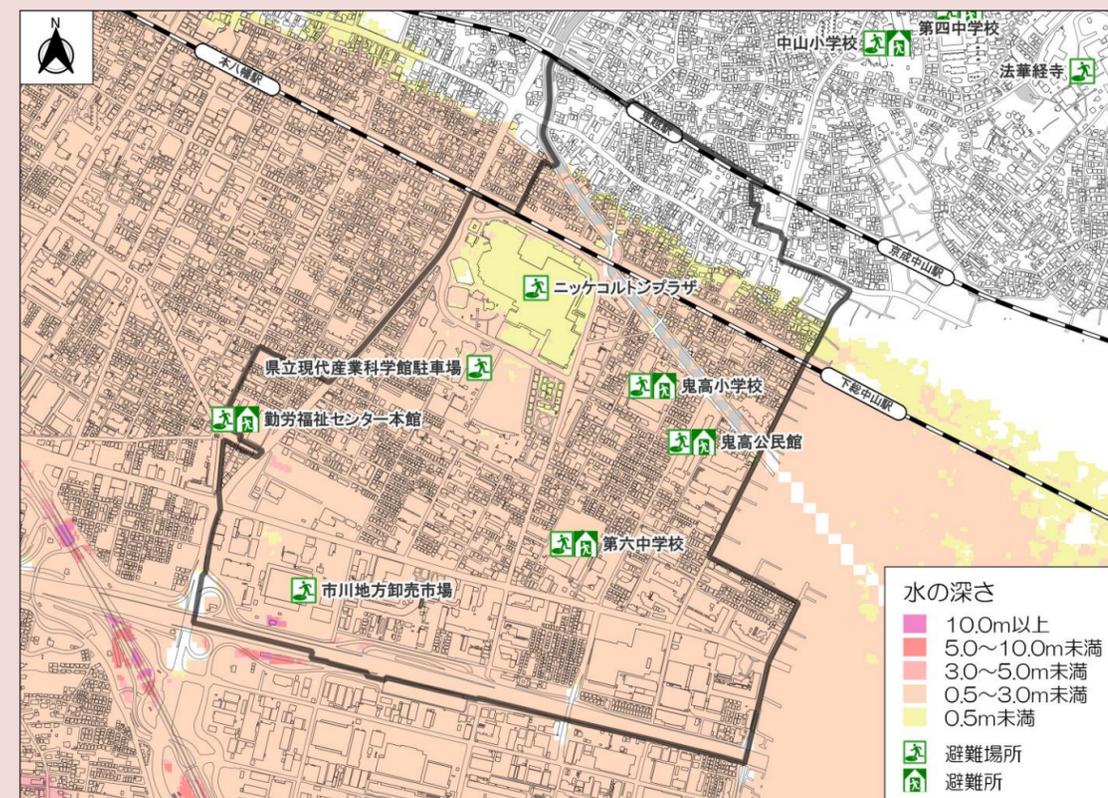
### ⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

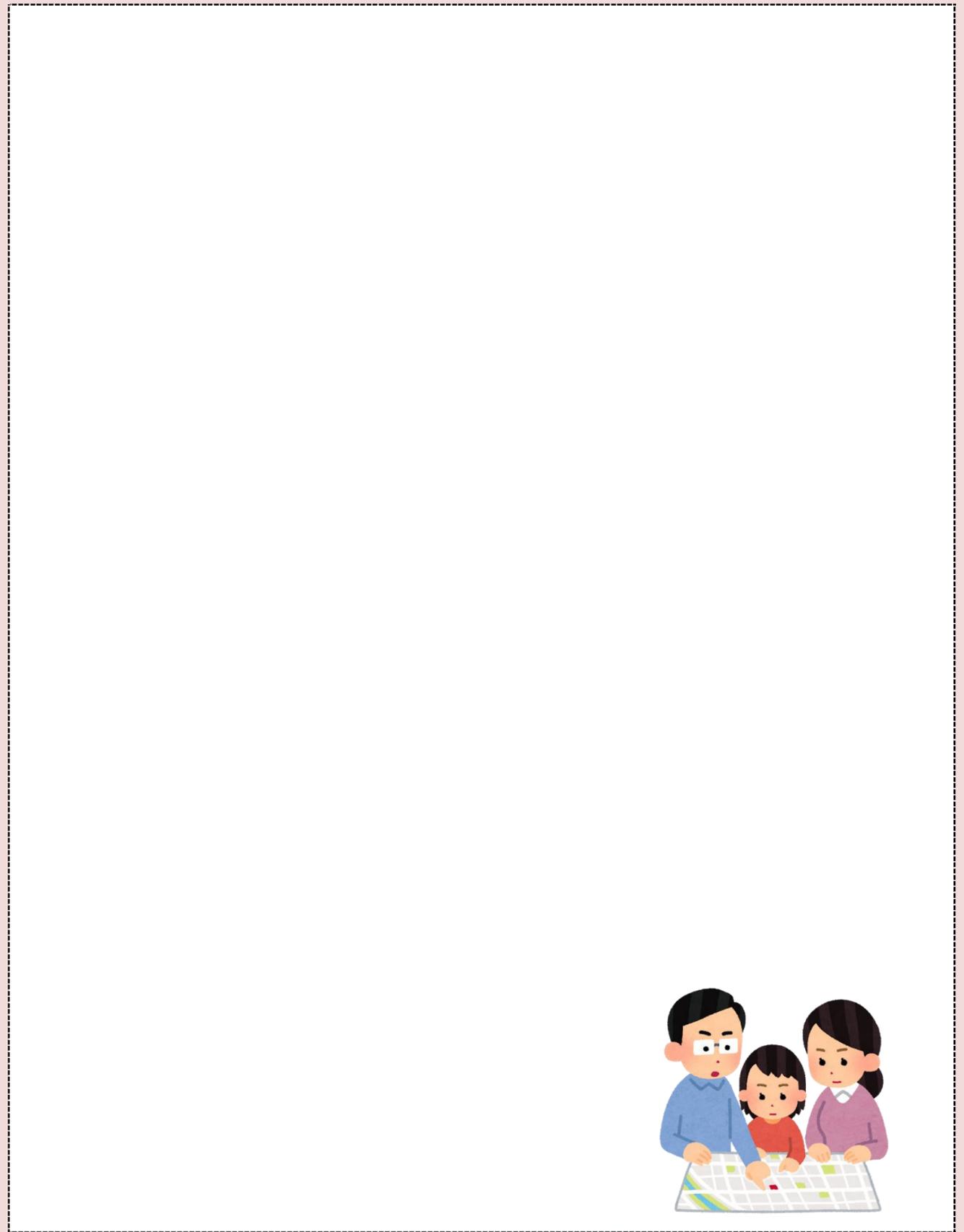
平成24年4月：千葉県

### ⑧洪水（江戸川）

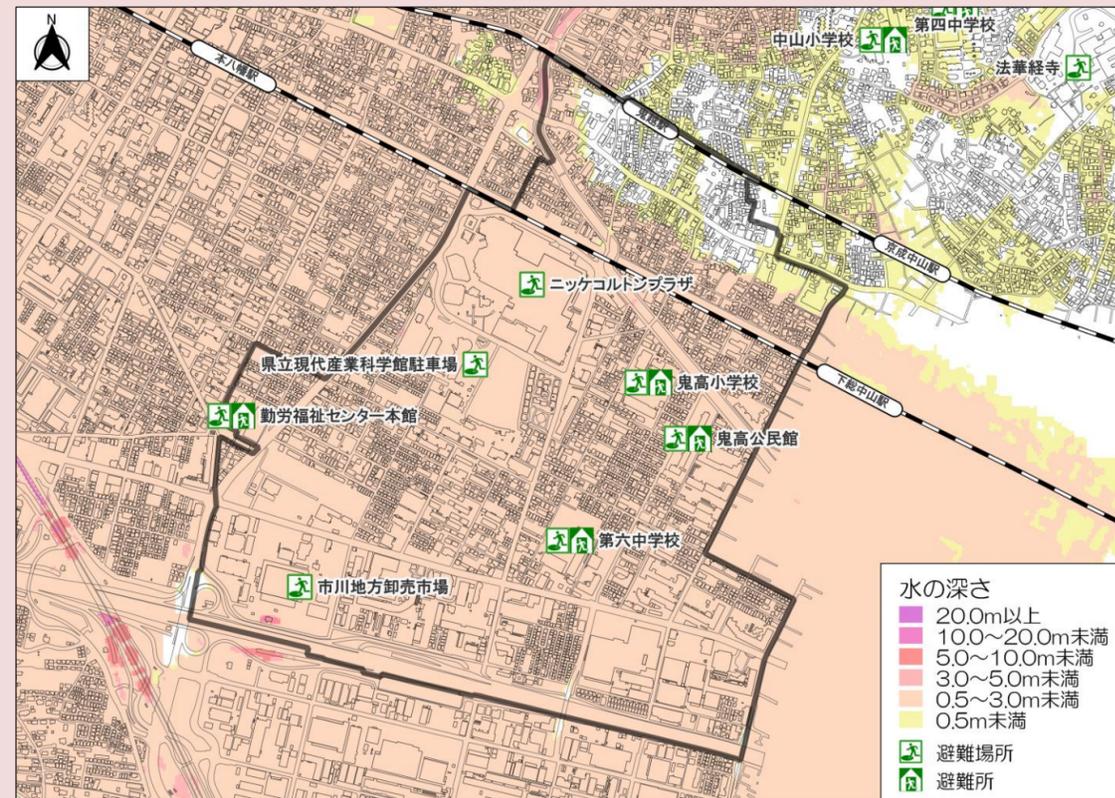


平成29年7月：国土交通省

◆メモ

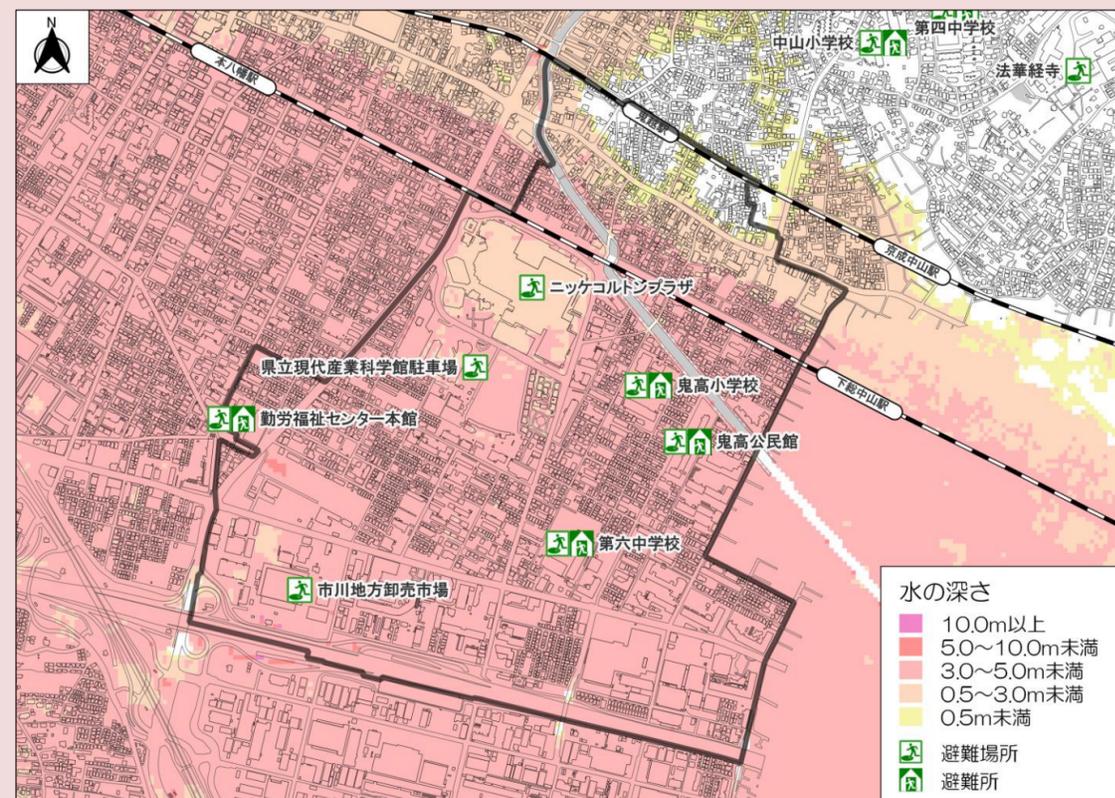


⑨真間川水系・内水氾濫



令和元年：千葉県(真間川水系)、令和2年：市川市(内水氾濫)、令和4年：千葉県(小規模河川)

⑩高潮



平成30年11月：千葉県